

令和6年度「全国家庭教育支援研究協議会」

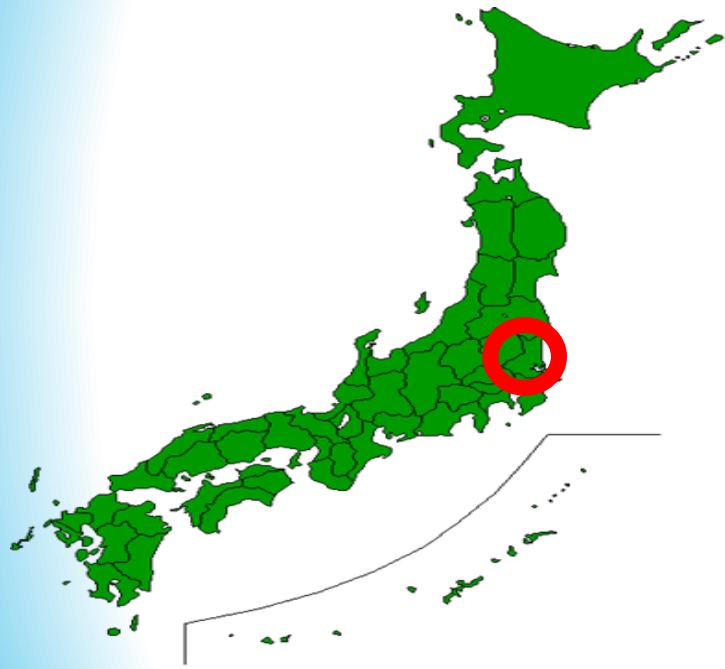


鹿嶋市訪問型家庭教育支援チームの取組

主な内容

- 1 鹿嶋市について
- 2 鹿嶋市訪問型家庭教育支援チームの取組
- 3 成果と課題
- 4 今後の展望

1 はじめに(1) 鹿嶋市について



1

歴史と自然を感じる

鹿島神宮へ行こう！

画像引用:鹿嶋市ホームページ
<https://www.clty.kashima.ibaraki.jp>



画像引用:鹿嶋市ホームページ
<https://www.clty.kashima.ibaraki.jp>

2

試合日以外も楽しめる
カシマサッカースタジアムへ行こう！



画像引用:鹿嶋市ホームページ
<https://www.clty.kashima.ibaraki.jp>



鹿島アントラーズのホームタウン

鹿嶋に住む幸せ。



画像引用:鹿嶋市ホームページ
<https://www.clty.kashima.ibaraki.jp>

1 はじめに

(2) 鹿嶋市の課題

人口減少・少子高齢化

「令和元年健康づくりに関する保護者アンケート」より

- ・「子育てに自信が持てない」 77%
- ・「子育てが困難だと感じている」 54.2%
- ・「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」 22.5%

「育てにくさ」 を感じている

親への支援が必要

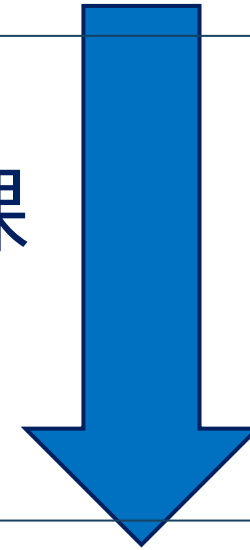
2 本市の取組について

(1) 鹿嶋市訪問型家庭教育支援チーム設立の背景

本市は子育てに不安を抱える保護者が多い

助言・指導

- 茨城県教育庁総務企画部生涯学習課
就学前教育・家庭教育推進室
- 茨城県鹿行教育事務所学校教育課



「届ける支援」「誰ひとりとして
取り残さない持続可能な家庭教育
支援」を重視した事業

2 本市の取組について

(1) 鹿嶋市訪問型家庭教育支援チーム設立の背景

平成29年度より

○鹿嶋市訪問型家庭教育支援事業の開始

鹿嶋市訪問型家庭教育支援チームの誕生

令和6年度の支援員の構成

8名（元教員3名・元保育士3名

・元幼稚園教員1名・元市役所職員1名）

※二人一組による小学校1年生全戸訪問（482件）の実施

2 本市の取組について

(2) これまでの経緯

- ①平成29年度：1～3年生の学校要望による家庭訪問（12件）
- ②平成30年度：就学前の全戸訪問（およそ600件）
- ③令和元年度：小学1年生の全戸訪問（およそ600件）
- ④令和2年度：コロナ禍のため、全事業中止
- ⑤令和3年度：コロナ禍「希望制」で実施も → **（対応件数1件）**
- ⑥令和4年度：小学1年生の全戸訪問（532件）
- ⑦令和5年度：小学1年生の全戸訪問（520件）
- ⑧令和6年度：小学1年生の全戸訪問（482件）

2 本市の取組について

(2) これまでの経緯



～厚良教育神、すべての教育のスタート地点～
高橋市内小学校1年生 高橋市内中学校1年生

子育てについて おしゃべりませんか！

子育てに関する情報の違いがあることは知っていますが、そこでどうして異なるのかということでもお話しし、でも、「おしゃべりしていいか？」と悩んでいるかー！
疑問や悩みをおしゃべりして、誰のつなぎを結んでみませんか？

～子育て支援員 (お母) の紹介～

子育て中のお母さんの悩み、いつでも聞いてくれる存在です！

子育て支援員 (お母) の紹介	子育て支援員 (お母) の紹介	子育て支援員 (お母) の紹介
高橋 美穂 (Takahashi Mitsu) 子育て支援員として、子育てに関する悩みや疑問を聞き、おしゃべりして、お母さん同士のつながりを築いていきます。	高橋 美穂 (Takahashi Mitsu) 子育て支援員として、子育てに関する悩みや疑問を聞き、おしゃべりして、お母さん同士のつながりを築いていきます。	高橋 美穂 (Takahashi Mitsu) 子育て支援員として、子育てに関する悩みや疑問を聞き、おしゃべりして、お母さん同士のつながりを築いていきます。

高橋市 高橋市子育て支援センター TEL 0294-82-2811 FAX 0294-82-7864
E-mail: amama@city-takahashi.lg.jp 088-888-8888



2 本市の取組について

(3) 組織体制

鹿嶋市訪問型家庭教育支援チームをサポートするために

鹿嶋市家庭教育力向上推進協議会（年3回程度）

○ 関係機関の代表者

学識経験者・学校・幼稚園・PTA
健康福祉部・保健センター・教育センター
教育委員会

○ 訪問型家庭教育支援チーム

(3) 組織体制

鹿嶋市家庭教育力向上推進協議会

関係機関
福祉事務所
児童相談所
SC・SSW

連携・協力

学識経験者
学校代表
幼児教育代表
PTA代表
健康福祉部
保健センター
教育センター
教育委員会

活動報告

連携・協力

助言・指導

家庭教育支援チーム

支援チームの取組

- ・1年 全戸訪問
- ・支援チーム会議への参加
- ・研修への参加

助言・指導

2 本市の取組について

(4) 支援員の資質・技能の向上

①茨城県主催の研修会参加

- ・家庭教育推進員資質向上研修（1回）
- ・訪問型家庭教育支援員資質向上研修（2回）

②市主催の研修

- ・鹿嶋市家庭教育支援チーム研修会（2回）
※県主催の家庭教育関係基礎研修
（動画）の実施

鹿嶋市主催、鹿嶋市家庭教育支援チーム研修会の様子

不登校・保健室登校を経験した
当事者の気持ち

「学校に行きたくないけど行かないといけない」「学校に行かないとみんなは行かないけど行かなくていい」と悩んでいる。

学校に行くだけですごく疲れる。授業中は、いろいろな音や人の声、においが気になって集中できなかったり、静かな時にお腹が鳴ったらどうしよう、先生に当てられて間違えたらどうしよう、など不安をずっと感じていたり、とにかく落ち着かない。家に帰ったらずっと疲れが出る。

学校に行こうと思っても朝起きると頭痛と吐き気で動けなかった。動けない自分が情けなかったし、行かなかったら怒られるかもしれないと不安だった。

鹿嶋市主催、鹿嶋市家庭教育支援チーム研修会の様子



保護者の問題や事案の
困難が
（ストレス発散）

訪問の際の対応 言葉掛け

子どもさんの事や心配して
るお母さんへ「様子、さあ、
話してね、お母さん、お話を
聞いてあげたい、その間にお
茶でも」

他にお話の中心を保護者の
話に引き出す、お母さんへ話
を聞かせたい、お話を聞
いてあげたい。

お母さんの話について不満
（相対時代に偏りなど）
の発言も

保護者の不安・不満

訪問での苦勞他

不在の対応
連絡等の確認に
はどきどき

探しても最後まで
見つからない、おまじ
みあり

訪問日を平日、休日
午前、午後と分けても
不在はわからない

訪問に好反応

聞き流してしまったり
怒ったり
「お話を聞きたい、
話したい、話したい」

聞き流して
お話を聞きたい、話
したい、話したい、話
したい、話したい

子どもの困り事を積極
的に話してくれる保護
者が多い

不在だったが、再訪問
の連絡があった。

不安解消

訪問に来たものの
最終的に「お話を
聞きたい、話したい、
話したい」

話を聞きたい、話
したい、話したい、話
したい、話したい

保護者の話を聞いて
お話を聞きたい、話
したい、話したい、話
したい、話したい

訪問に際して (事前準備)

お話を聞きたい、話
したい、話したい、話
したい、話したい

お話を聞きたい、話
したい、話したい、話
したい、話したい

2、3日前に事前準備
をしておく、お話を聞
きたい、話したい、話
したい、話したい



(5) 支援チームによる家庭訪問の取組

ア 家庭訪問に向けて

支援チーム会議の開催

○訪問の目的や留意点の確認

目的・・・保護者の不安軽減
安全安心な生活

留意点・・・役割自覚
寄り添う
つなぐ
秘密を守る

訪問型家庭教育支援について

社会教育課

1. 家庭教育支援員としての心構え

(1) 役割を自覚する力

- 家庭教育支援のねらいや内容等を理解し、自己の役割が分かる。
- 訪問型家庭教育支援のねらいや内容等を理解し、チーム員としての自分の行動に自信を持ったり、振り返って修正したりすることができる。
- 家庭と子どもの現状を知り、主体的に事業に関わろうとすることができる。
- 自身の「学び」を家庭教育支援に活用する意欲を持つとともに、家庭教育支援の活動を通して、新たな「学び」と「つながり」をつくり出そうとすることができる。

(2) 寄り添い関わる力

- 保護者の悩みや不安を聴くことを通して、保護者との信頼関係を構築することの必要性を理解し活動することができる。
- 保護者に寄り添い、保護者の目線から一緒になって考えることができる。

(5) 支援チームによる家庭訪問の取組

ア 家庭訪問に向けて **マニュアルの確認**

内 容	具体的な言葉かけ	不安や悩みがある場合	不在の場合
1 訪問宅着 ・自己紹介 ・訪問の趣旨	○こんにちは。鹿嶋市教育委員会 家庭教育支援員の〇〇〇です。 ○小学1年生のお子さんのいらっし やる家庭を訪問して、お話を聞か せていただいております。 ○少しお時間をいただいてもよろし いでしょうか。		・訪問票とチラ シをポスティ ングし、メッセ ージを残す。
2 訪問支援	①今、お子さんは、楽しく小学校 に通っていますか。	①具体的な不安・悩みの <u>傾聴</u>	

(5) 支援チームによる家庭訪問の取組

ア 家庭訪問に向けて

支援員の困り感の確認

支援員から

「地図に載っていない家・アパートの場所を知りたい」

⇒ 総務部や校長会・教頭会にて

情報提供を依頼

(5) 支援チームによる家庭訪問の取組

イ 家庭訪問

期 間 5月中旬～1月中旬 主に土・日

方 法

- ・二人一組 各家庭10分
- ・玄関先でのおしゃべり
- ・心配な家庭は再訪問
- ・不在時は「訪問票」
を置いていく

(5) 支援チームによる家庭訪問の取組

イ 家庭訪問

「訪問票」について

- 目的 不在保護者とつながる
- 方法 QRコードの活用 13件(R6)
- 書込 「〇月〇日に来てほしい」
「子どもの相談をしたい」
「自分(母親)の相談をしたい」
「場所の指定」
「ありがとうございました」

別紙5 **訪問票**

鹿嶋市では、お子さまが小学校に入学してからの不安や心配なことを気軽に相談できる窓口として、訪問型家庭教育支援事業(小学1年生全戸訪問)を実施しております。

本日、訪問しましたがご不在でしたので、訪問票を置かせていただきます。

再度、家庭訪問の希望がありましたら下記QRコードよりお申込みいただくか、問合せ先までご連絡ください。

令和 年 月 日() 時 分頃
伺いましたところ留守でした。

家庭教育支援員

問合せ先 再訪問受付フォーム

鹿嶋市教育委員会事務局
社会教育課
担当：岸根
TEL：0299-82-2911
(内線217)



(5) 支援チームによる家庭訪問の取組

イ 家庭訪問

よかったこと

- 「訪問に好意的な家庭が増えた」
- 「すっきりしました・ありがとうございました
ございました等と言われた」
- 「情報を伝えた後のフィードバック
があって嬉しい」
- 「事務局が素早く動いてくれる」
- 「事務局が相談しやすい」 など

課題

- 「新築で地図に載っていない」
- 「不在家庭が多かった」
- 「身構える保護者がいる」
- 「攻撃的な保護者がいる」
など

(5) 支援チームによる家庭訪問の取組

ウ 家庭訪問終了後 訪問支援記録表

名簿番号【 】 氏名		訪問支援記録票	
令和6年 5月 18日 (土)		【 】	
(13) 時 (50) 分 ~ (13) 時 (55) 分		不在時：訪問票の設置 <input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
訪問時対応者 <input type="checkbox"/> 母・ <input type="checkbox"/> 父・ <input checked="" type="checkbox"/> 祖母・ <input type="checkbox"/> 祖父・ <input type="checkbox"/> その他 ()			
支援 相談 内容 等	<input checked="" type="checkbox"/> 相談なし		
	<input type="checkbox"/> 相談あり (重複可)		
	① <input type="checkbox"/> 学校・先生への不満 ② <input type="checkbox"/> 児童クラブへの不満 ③ <input type="checkbox"/> 子どもの友人関係 (いじめ等)		
	④ <input type="checkbox"/> 子どもの異学年との関係 ⑤ <input type="checkbox"/> 子どもの発達 (知的・情緒・言語)		
	⑥ <input type="checkbox"/> 子どもの学習面 ⑦ <input type="checkbox"/> 子どもの健康面 (アレルギー・等食)		
	⑧ <input type="checkbox"/> 家庭の問題 (夫婦間・ひとり親等) ⑨ <input type="checkbox"/> 子育ての悩み ⑩ <input type="checkbox"/> 経済的な不安		
	⑪ <input type="checkbox"/> 通学路等の安全 ⑫ <input type="checkbox"/> その他 ()		
	学校報告の必要性 <input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 継続訪問の必要性 <input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 緊急対応の必要性 <input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無		
【記録欄】			
元気に登校できている。			
13歳の兄とけんかしてばかり楽しく行っている。			
帰宅後は疲れて機嫌が悪い(父母はほめてあげるのが大変そう)			
<input type="checkbox"/> 特記事項なし			

(5) 支援チームによる家庭訪問の取組

ウ 家庭訪問終了後

関係機関へつなぐ 47件

(令和6年度)

- ・ 友人関係の相談
- ・ 子育てに関する相談
- ・ 家庭に関する相談
- ・ 子どもの発達に関する相談
- ・ 児童クラブや学校の対応に関する相談

重大事案だけでなく、重大事案を疑うものや、心配なもの・気になるものもつないでいる。

- (5) 支援チームによる家庭訪問の取組
ウ 家庭訪問終了後

保護者の肯定的な意見

「担任が子どもの面倒をよく
見てくれる」
「学級の雰囲気が良い」
「学校が楽しい」
「教え方がうまい」 など

学校に伝え、意欲を
喚起している。

3 成果と課題

(1) 成果

- 「おしゃべり」をしているうちに、「こうしよう」と**自己決定する保護者**が多く見られた。
- チラシを活用し、事前に支援チームの取組を周知したことで、**保護者が安心して相談**することができた。
- 「訪問票」の**QRコード**を活用し、面会できた件数が向上した。

3 成果と課題

(2) 課題

- △ 面会できる件数を増やしていくための手立てを講じる必要がある。
- △ 「学校への相談は敷居が高い」と思っている保護者が多い。
- △ 支援員の意欲の喚起。

4 今後の展望

○ 支援員の人材確保

- ・声掛けや紹介

○ 支援員の資質向上

- ・研修の機会の充実



ありがとうございました